

中学校 2年 社会科 (歴史)

考える
想像する
表す

読む

育成したい
国語力

複数の資料の情報から、当時の状況を把握し、その原因を考え、自分の考えや判断に生かす。また、読み取ったことを吟味し、評価しながら自分の言葉で表す。

単元名

「日露戦争」

本時の目標

- 日清戦争と日露戦争に関する複数のデータを読み取り、日露戦争の特徴について考えることができる。(資料活用の技能・表現)
- 約100年前の国民生活の様子から、当時の庶民の気持ちを考えた上で、日露戦争後の日本の社会状況を理解することができる。(社会的な思考・判断)

本時の流れ

学習内容

導入

日露戦争後の絵画(資料)を見る。
日露戦争後の国民生活について推測する。

視点①

資料の意図を、その歴史的背景まで想像して読み取り、考える力をはぐくみます。

展開

資料 から、日露戦争期に、軍事費が歳出のおおよそ何%を占めているのかを計算する。

資料 ・ などから、日露戦争後に国民生活がどのような状況になったのかを読み取る。

国民の大国意識について説明を受け、日露戦争後の国民生活や意識について多面的・多角的に考える。

資料 の地図から、ロシアから地政学的にみた日本について考える。

日露戦争のアジアへの影響を理解する。

これらのことにより、近代日本を多面的・多角的にとらえる。

視点②

さまざまな種類の資料から、自分の知識につなげて必要な情報を読み取り、自分の考えを深めます。

まとめ

日露戦争後の庶民の気持ちを推論し、簡単な文章にまとめる。

視点③

資料から読み取ったことを吟味し、評価しながら自分の言葉で表す力をはぐくみます。

国語力育成の視点

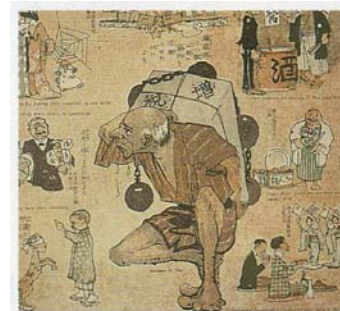
複数の資料からの情報を、目的を明確にして正確に読み取り、資料の関連性をも読み取ることにより、資料を様々な角度から読み取ろうとする意欲や考える力をはぐくむことができます。また、資料が風刺している内容を理解することにより、作者の感情や思考に迫る力をはぐくむことも期待できます。さらに、複数の資料から推論し、簡単な文章にまとめることにより、読み取ったことを吟味し、評価しながら自分の言葉で表す力をはぐくむことができます。

これらのことにより、「様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」という歴史的分野の目標を達成する一助にもなります。

教材等の例

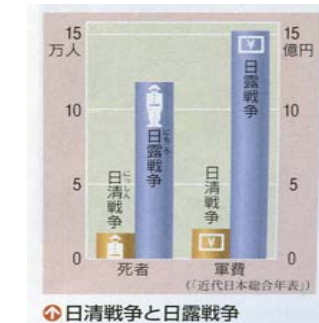
「日露戦争後の日本について考えよう」 ()組()番 氏名()

資料 北沢楽天 作
「戦後の行賞至らぬ隈もなし」
(「東京パック」4巻15号
〔明治41年5月20日〕)



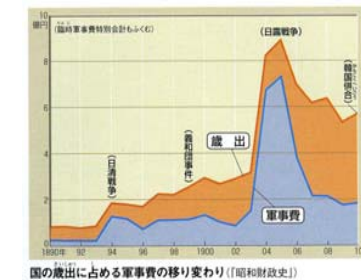
(さいたま市立漫画会館所蔵)

資料 日清戦争と日露戦争



(東京書籍「新編新しい社会 歴史」より)

資料 国の歳出に占める軍事費の移り変わり



(大阪書籍「中学社会 歴史的分野」より)

資料 ユーラシア大陸北部から見た日本



(東京書籍「新しい社会 地理」より)

日露戦争後の庶民の気持ちを推論しよう。
